

チームスポーツにおける控え選手の位置づけ

—BSSC学生の実態調査—

綿谷 祐志 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：モチベーション 意思決定 コミュニケーション

1. はじめに

一般的な組織では、働く者の上位層から下位層まで全ての社員が同じ目標を掲げ、それぞれに与えられた役割を果たすことで、より仕事の効率が上昇すると考えられている。つまり、人的リソース（人の持つ資源）の有効的活用が重要である。これはチームスポーツも同様で、チーム内全ての選手が同じ目標に向かい、意識を統一することがチームの士気を上昇させると考えられる。

本研究では、チーム内の選手の意識、特に控え選手の「考え」や「行動」に着目する。控え選手の役割が、チーム内でどのように貢献されているのかを明らかにする。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、本学チームスポーツの「野球部」「サッカー部」「男女バスケットボール部」「男女バレーボール部」の計6チームからレギュラー選手2名、控え選手2名、計24名にインタビュー調査を行う。

3. 結果と考察

図1に示したように、他への意見具申ができていないという控え選手が多い。このことから控え選手は、レギュラー選手と監督・コーチに十分考えを伝えきれていないことがわかる。その原因は、レギュラー選手に対し、技術面で負い目を感じ委縮してしまっているという理由にある。図2は、意思決定の際、控え選手を含めた学生主体による議論が効率的な成果に繋がることを示している。

控え選手は自身の準備、チームを勝利させるために出来る事、試合以外での裏方的な役割、その全てを考えなければならない。トレーナーなどの役割を兼務する控え選手の場合、監督やコーチ、スタッフとコミュニケーションがしっかりとれていることもわかった。

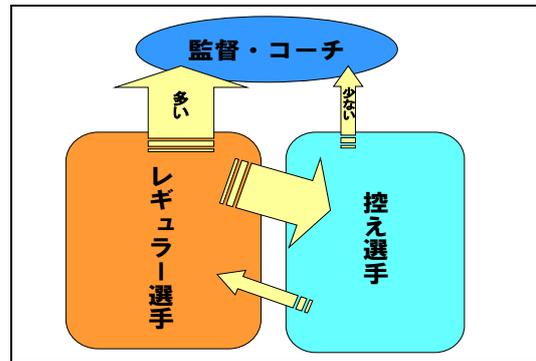


図1 チーム内でのコミュニケーション量

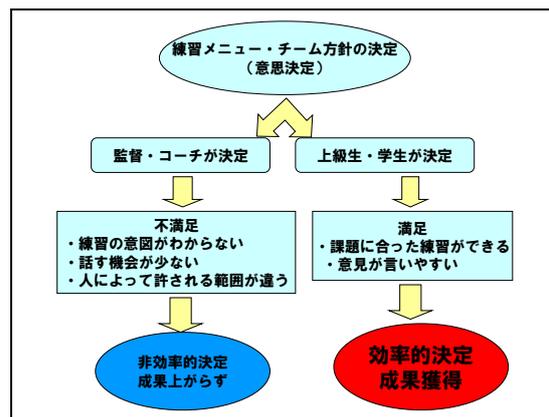


図2 意思決定の相違による成果

4. まとめ

控え選手の人的リソースを引き出し、チーム内で挙げられた問題を解決するためには、意思決定プロセスとコミュニケーションが重要だといえる。つまり、控え選手・レギュラー選手に関わらず、フラットで円滑な議論がいつもできるような体制にチームはしておかなければならない。

このようなことで、チームワークが向上し、チームとして大きな成果を挙げることに繋がるのである。

引用・参考文献

原田奈美(2004)『チームメンバを動機付ける実践的アプローチ』日本アイ・ビー・エム株式会社